

令和7年度 第1回
三鷹市障がい者地域自立支援協議会

地域課題の共有・協議について(発表シート)

部会長 大野 通子
(発表者)

発表内容

部会名	相談支援部会
テーマ	以下の、第三期三鷹市障がい者(児)計画に掲げた「三鷹市の障がい者施策における課題」から、テーマを選択してください。 - 障がいに対する理解の拡大 - 安心して暮らせる地域づくり ③ 障がいのある人の自己決定の尊重と相談支援機能の強化・充実 ④ 生活支援と家族支援の充実 - 就労を含めた社会参加の推進 ⑥ 一人ひとりの状況に応じた切れ目のないサポートの提供
具体的な内容・事例	1 今年度の活動テーマ 「ライフステージによって切れ目のない支援を実現する」 障害者サービスの利用者が介護保険サービスを利用する時など、「サービスの切れ目」に課題を感じている。今年度も継続したテーマで活動する。 2 活動経過 (1)障害者、高齢者の福祉サービスに関わる支援者を対象にした多職種事例検討を平成30年から実施してきた。 (2)支援の切れ目は就学期＝6歳、高校卒業以降＝18歳にもあり、架空事例を作って、学校関係者、放課後デイ事業所、学童保育所、生活保護CWなど、切れ目に関わる支援者に参加を呼びかけ、多様な職種がつながる機会を作ることができたのは大きな成果である。 (3)昨年度は、複数の課題を抱える家庭における児童、障害者(児)、高齢者等のそれぞれの支援チームが連携できない「切れ目」に注目し、事例検討を行った。複数の支援者が関わるケースでは、情報の整理・連絡、支援チームの連携のマネジメントを誰がやるべきかという課題が上がった。この点については今年度の部会活動の軸として検討していきたい。 3 本会での意見交換で出た課題 昨年度の自立支援協議会本会で部会活動を発表し、意見交換した際、他の部会から以下の意見をもらうことができた。 (1)放課後デイの利用は計画相談支援員が不足しているため、セルフプランによる利用が多い。そのため成人した際に計画相談支援の支援

	内容が本人や親に知られず、障害者サービスの情報が入りにくい。切れ目が課題ではなく、入り口を手厚くフォローするしくみが必要。 (2)当事者としては、身近に頼れる支援者がいればその人に相談をしていきたい。
協議会の場で行いたいこと	以下から、協議会の場で行いたいことを選択してください。 ・ <u>意見交換</u> - テーマ① 支援チームが多職種の場合は誰が、何をどうやって決めて動けばいい？ - テーマ② 相談、支援の「入り口」を広げるための方法 - テーマ③ 当事者にとって相談者、支援者はどんな存在？ ・ 情報共有 ・ 事例の提供 ・ その他()
協議の結果を受けた、今後の部会の予定	令和7年度も多職種による事例検討会を実施する。
その他	